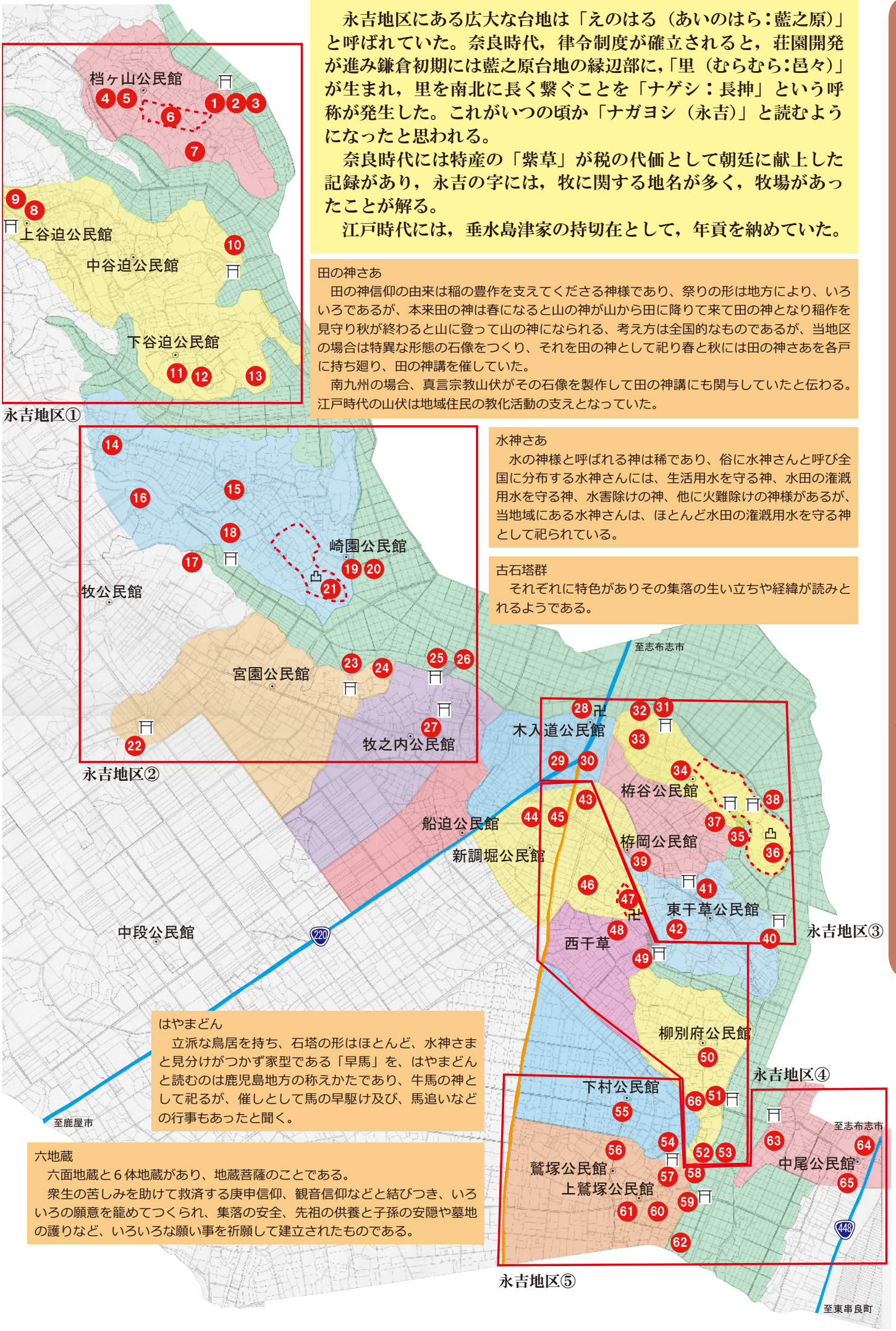
未知なる歴史が探求心をかき立てる地域（永吉地区）

永吉地区にある広大な台地は「えのはる（あいのはら：藍之原）」と呼ばれていた。奈良時代，律令制度が確立されると，荘園開発が進み鎌倉初期には藍之原台地の縁辺部に，「里（むらむら：邑々）」が生まれ，里を南北に長く繋ぐことを「ナゲシ：長押」という呼称が発生した。これがいつの頃か「ナガヨシ（永吉）」と読むようになったと思われる。

奈良時代には特産の「紫草」が税の代価として朝廷に献上した記録があり，永吉の字には，牧に関する地名が多く，牧場があったことが解る。

江戸時代には，垂水島津家の持切在として，年貢を納めていた。



田の神さあ

田の神信仰の由来は稲の豊作を支えてくださる神様であり、祭りの形は地方により、いろいろであるが、本来田の神は春になると山の神が山から田に降りて来て田の神となり稲作を見守り秋が終わると山に登って山の神になられる、考え方は全国的なものであるが、当地区の場合は特異な形態の石像をつくり、それを田の神として祀り春と秋には田の神さあを各戸に持ち廻り、田の神講を催していた。

南九州の場合、真言宗教山伏がその石像を製作して田の神講にも関与していたと伝わる。江戸時代の山伏は地域住民の教化活動の支えとなっていた。

水神さあ

水の神様と呼ばれる神は稀であり、俗に水神さんと呼び全国に分布する水神さんには、生活用水を守る神、水田の潅漑用水を守る神、水害除けの神、他に火難除けの神様があるが、当地域にある水神さんは、ほとんど水田の潅漑用水を守る神として祀られている。

古石塔群

それぞれに特色がありその集落の生い立ちや経緯が読みとれるようである。

はやまどん

立派な鳥居を持ち、石塔の形はほとんど、水神さまと見分けがつかず家型である「早馬」を、はやまどんと読むのは鹿児島地方の称えかたであり、牛馬の神として祀るが、催しとして馬の早駆け及び、馬追いなどの行事もあったと聞く。

六地蔵

六面地蔵と６体地蔵があり、地蔵菩薩のことである。

衆生の苦しみを助けて救済する庚申信仰、観音信仰などと結びつき、いろいろの願意を籠めてつくられ、集落の安全、先祖の供養と子孫の安隠や墓地の護りなど、いろいろな願い事を祈願して建立されたものである。

未知なる歴史が探求心をかき立てる地域（永吉地区）①

1 彦三所大権現（彦山神社）

創建は不明。
再興の棟札に天文４年（1535 年）とある。
ご神体について、大崎名勝誌には
『中尊は釈迦、左は観世音、右は阿弥陀』と記されている。

2 档ヶ山の水神

（上）鳥居の右
（下）鳥居の左

3 档ヶ山の田の神

昭和８年（1933 年）
耕地整理記念

遺跡全景

6 永吉天神段遺跡

東九州自動車道の建設に伴い、発掘調査が行われた。
縄文時代早期（約 7,300 年前）の巨大地震に伴う墳砂跡、縄文時代前期（約 5,000 年前）の土器・石器、弥生時代（約 2,100 年前）の集落跡・墓群・円形周溝墓、平安時代の集落跡や鎌倉時代（約 800 年前）の墓などが発見されている。

円形周溝墓
※永吉天神段遺跡発掘調査報告書 2020 より転載

5 档ヶ山の稲荷神社

はやまどんの近くに祀ってある。

4 档ヶ山の
はやまどん

牛馬の神・集落の守り神として信仰されている。

9 谷迫の六面地蔵

建立の時期は不明。六道（地獄道、餓鬼道、畜生道、修羅道、人道、天道）のそれぞれの衆生を救済する六面の地蔵がはっきりと確認できる。

8 谷迫のはやまどん

7 档ヶ山の古石塔

詳細は不明。
宝塔３基、五輪塔３基が確認されている。

12 谷迫の古石塔

応永初期（14 世紀後半）～戦国時代（15 世紀末）の宝塔が７基あり、肝付家関連のものと考えられる。
五輪塔も２基確認されている。東光寺跡とも言われている。

11 谷迫の田の神

女人型美人像である。

10 谷迫の水神

13 谷迫の砲台跡

太平洋戦争の末期、志布志湾岸一帯には本土決戦に備えた陣地が構築され、谷迫にも大砲が据えた砲台が造られていた。
終戦後に進駐軍が砲台の中に弾薬類を集め爆破させた。

未知なる歴史が探求心をかき立てる地域（永吉地区）②

16 愛之原御茶屋跡

大崎名勝誌には、宝暦元年（1751年）藩主・島津重年が藩内巡視を行った際に『愛之原御茶屋』で休憩をとったと記録されている。『藍之原』とも言われている。

15 崎園の六面地蔵

建立の時期は不明。頂上の宝珠が欠落している。六面のうち四面が確認でき、4体の地蔵はそれぞれ薬壺・念珠・幡持・錫杖を持っている。

14 崎園のはやまどん

18 白山権現（白山神社）

棟札から元和7年（1621年）橋本助七という人物が創建し、また慶安3年（1650年）に藩主・島津光久が再興したことがうかがえる。

明治42年（1909年）10月、都萬神社に合祀された後に集会所を兼ねた社殿が造られた。

全国の白山神社の総本社は加賀の白山比咩神社とされ、祭神は白山比咩大神（菊理媛神）・伊弉諾尊・伊弉冉尊である。

17 崎園の砲台跡

太平洋戦争の末期、志布志湾岸一帯には本土決戦に備えた陣地が構築され、崎園にも大砲を据えた砲台が造られていた。

内部は素堀であったためすでに崩落しているが、コンクリートの掩体部は残っている。

21 野卸城跡

築城時期は不明であるが、鎌倉時代と推定される。

高山串良方面から志布志方面へ通じる交通の要所に位置し、重要な中継点であった。天正2年（1574年）に肝付氏が島津氏に降った後、廃城になったと考えられる。

22 宮園の稲荷神社

詳細は不明であるが、農業神・穀物神であるお稲荷様を祀り、五穀豊穣を祈ったものと考えられる。

石祠の銘には『文政十二年（1829年）正月』とある。

20 崎園の田の神

稲の生長を守り、豊作をもたらす農神である。

19 崎園の水神

「奉寄進明治33年8月15日」の銘が刻まれている。

24 宮園の古石塔群

日州救仁院、平八成直（安楽城主）は、建久の頃忠久の下知に叛く

1539年安楽城主の後裔である安信は大崎わたうち川合戦で島津に味方、討死1571年安信の孫安俊は下大隅垂水戦（肝付対島津）に参戦、戦死

以後安俊の兄、安宣の頃、安楽を捨てて当地宮園に移住江戸時代以降、一族の供養塔を建立したものらしい。

23 宮園の水神

水稲耕作と強く結びついた、田を守る水神である。

石祠の銘には『文政十三年（1830年）寅年吉日』とある。

25 牧之内の田の神

女人型で杓子とスリコギを持った田の神である。持ち回りで集落内の各家庭に祀られていたが、昭和33年5月5日に水神が祀ってある敷地に据えられた。

26 牧之内の水神

『弘化三年（1846年）』の銘が刻まれている。

毎年旧暦の8月15日に『八月踊り』が奉納されている。

27 牧之内の馬頭観音

牛馬の守護神として信仰を集めた。縁日にあたる旧暦の1月18日と6月18日は、牛馬の息災安全を祈願する多くの参詣者でにぎわった。